

【スライド1】 みなさんこんにちは。第1回目の研修では、ロータリーの奉仕、すなわち「一般奉仕概念」について、第2回目では、ロータリーの本質が「自己教育運動」であることをお伝えしました。ロータリアンは、自己教育によって、誰にでも優しくする心、すなわち、「奉仕の心」を養い、それを、現在では「五大奉仕」と呼ばれる「一般奉仕」として世の中に放流します。これがロータリーの奉仕の正体です。

3回目の今日は、最低限押さえておきたいロータリーに関する基礎知識についてお話しします。これまでお伝えしてきたロータリーの本質の部分を「幹」とすれば、今日の内容は「枝葉」の部分です。両方そろってロータリーという大きな木が見えてきます。時間の制約がありますので全て網羅できませんが、重要だと思われる事に絞ってお伝えします。

1. ロータリーの目的

【スライド2】 まず、「ロータリーの目的」についてお話しします。以前は「ロータリーの綱領」と呼ばれていましたが、2013年に「ロータリーの目的」と改称され、内容も平易な文章に変更されました。

「ロータリーの目的」はロータリーの活動の頂点に位置します。それゆえ非常に抽象的で、読んだ後に何が書いてあるのかわからないという一面もあります。そこで今日は、「ロータリーの目的」をしっかりと読み込んでみます。

【スライド3】 「ロータリーの目的」は、会員名簿の最初のページにも記載されています。それは次の通りです。

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

付記：「ロータリーの目的」の4つの項目は、等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならないものであるということで、RI理事会の意見が一致している。

最初の「ロータリーの目的は」から始まるのが「ロータリーの目的」の「本文」です。それに続いて、第1から第4まで4つの項目があり、最後に「付記」、以上で構成されています。ロータリーの目的が最初の「本文」に書かれていて、それを達成するための具体的な行動が4つ示されているという構造になっています。

では、各部分を解説します。

【スライド 4】まず、本文がロータリーの目的を記述した部分です。

「奉仕の理念」、イデアル・オブ・サービスとは「奉仕の心」のことで、「人に優しくする心」のことで。ロータリーの目的は、「人に優しくする心」が職業の基礎を成すものであると認識し、「人に優しくする心」を自分の中に育て、さらに外に広めていこうとすることです。そのためにロータリアン個人が行う自己教育が非常に大切なのはそういう理由によります。

では、それを達成するためにどんな行動が要求されているのでしょうか。これが、第1から第4まで4つ示されています。

【スライド 5】第1項目は、「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」ですが、これは「クラブ奉仕」のことで。「知り合い」とは、ただの知り合いや仲良しではなく、同じ志を持つ「心の友」です。「志」とはロータリー哲学を自分の生き方にする意思のことです。そんな「心の友」の集まりが「ロータリークラブ」です。クラブの中で、しっかり自己教育を行って人間性を高め、お互いにそのような「心の友」として付き合うことができるようになり、互いに切磋琢磨しあうこと、これが第1項目に書かれている「クラブ奉仕」の意味です。

【スライド 6】第2項目は「職業奉仕」のことを示していると思われます。第2項目は次の3つの部分からなっています。

- ①「職業上の高い倫理基準を保つこと」
- ②「役立つ仕事はすべて価値あるものと認識すること」
- ③「ロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」

以上3つです。

【スライド 7】まず①は、法を遵守し、他人が非道徳的な商行為で利潤得たとしても決してそれを認めず、また自分もそのような行いをせず高い倫理基準をもって職業を行うことです。

【スライド 8】次に②は、「職業に貴賤（きせん）なし」ということです。どんな職業も必ず世のため人のためになっていることを理解し、等しく尊重しようとするということです。

【スライド 9】最後に③は、自分の職業が私利私欲に偏らず潔いものにならないとすることが必要です。

【スライド 10】第1項目の「クラブ奉仕」と第2項目の「職業奉仕」を実践すれば、ロータリアンには一種のプライドが生まれ、それによって独特のオーラが生じ、その経営には高潔さが生まれると言われています。私たちが襟につけているロータリーマークは「誇りのシンボル」といわれていますが、これを付けている人は、このオーラや職業の高潔さを目標に日々、自己教育に励み、それを成し遂げる人のことを言います。

【スライド 11】さて、続く第3項目は、ロータリアン一人ひとりが行う「個人奉仕」について書かれています。ロータリアンは自己教育によって「奉仕の心」を養いますが、養うだけでなく、それを日常や職業、社会生活において放流していかなければならないと、奉仕を実践することの大切さを訴えています。

【スライド 12】もともと「ロータリーの綱領」には以上3つの項目が含まれていましたが、1921年のエジンバラ国際大会においてロータリーの新しい奉仕部門として「国際奉仕」が提唱されたときに、「国際理解、親善、平和を推進する」という「国際奉仕」に対応する第4項目が付け加えられました。

【スライド 13】最後に、「付記」について補足します。「付記」では、4つの項目は「等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならないもの」と書かれています。1951年に元々の英語である“Objects of Rotary”から“Object of Rotary”に改められ、「オブジェクト」が複数から単数になりました。それまでは4つあったロータリーの目的が、本文に示される1つと、4つの付随項目になったということです。

2. ロータリーの標語

【スライド 14】次に、ロータリーの標語についてお話しします。ロータリーの公式標語は次の2つです。

【スライド 15】「超我の奉仕 (Service Above Self)」

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (One Profits Most Who Serves Best)」

【スライド 16】この2つの公式標語は、次のように「決議 23-34」の第1項目にも登場します。

「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。」

「超我の奉仕」はロータリーが提唱する生き方、哲学を示すもので、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は、奉仕を実践するときの原則です。

では、2つの標語がそれぞれ何を意味しているのかお話しします。

【スライド 17】まず、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (One Profits Most Who Serves Best)」ですが、これは1910年にシェルドンが演説で“He profits most who serves best”と述べたのが最初で、翌1911年のポートランド大会でロータリー宣言の結語として採択されました。そして、2010年の規定審議会で、HeがOneに変更され、今に至ります。

【スライド 18】「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (One profits most who serves best)」は、奉仕を実践するときの原則です。奉仕すなわち「人の役に立つこと」を実践すれば、それが自分の利益につながるということなのですが、この「利益」は経済的利益だけではなく、充足感のような精神的利益も併せてのことであり、また、人間として、職業人としての成長を意味しています。

【スライド 19】もうひとつの「超我の奉仕 (Service above self)」も、同じ1911年のポートランド大会で誕生しました。ミネアポリス・ロータリークラブのフランク・コリンズが余興のクルージングの船上で発表したと伝え

られる「無私の奉仕 (Service, not self)」が自己義戦を匂わせるので、その後 Service above self に変更されて、シェルドンの標語と共に広く使用されるようになったものです。

「超我の奉仕 (Service above self)」はロータリーが提唱する哲学です。これ自己犠牲を推奨しているものではありません。その意味するところは、利己に偏りがちな人間が、利他の精神を尊重し、その2つのバランスを取っていこうとするところに、人間として、職業人としての成長があるのだということです。

【スライド 20】 このように、両方とも 1911 年に表舞台に出てきましたが、これらが公式なロータリーの標語になったのは、1950 年のデトロイト国際大会で採択されてからです。さらに、「超我の奉仕」は 1989 年よりロータリーの第一標語となりました。

【スライド 21】 ロータリアンは、「超我の奉仕 (Service above self)」という奉仕哲学を尊重する中で利己と利他の調和を図り、その実践に当たっては、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (One profits most who serves best)」という実践原則に基づいて行動することが要求されます。そこから得られる精神的充足感、人間的成長こそ、ロータリアンが得られる最大のメリットです。

3. ロータリーの組織

【スライド 22】 さて、ここからはロータリーの組織についてお話しします。ロータリーの組織は、「ロータリアン」、「ロータリークラブ」、「RI (国際ロータリー)」、「ロータリー財団」、この4つから構成され、これらが一体となって、世界中の地域社会に変化を生み出しています。

最初に確認すべきことは、ロータリーは、4人の「ロータリアン」が始めた「ロータリークラブ」から始まったということです。そして、後になって、「ロータリークラブ」を束ねるために「RI」が生まれ、さらに資金を管理するために「ロータリー財団」が生まれました。しかし、ロータリー世界を理解する上で一番重要なのは、「ロータリアン」と「ロータリークラブ」の2つであることを確認していただき、以後の説明をお聞き下さい。

ロータリーは「ロータリアン」という個人が基本であり主役です。そして、「ロータリアン」が集まって作るのが「ロータリークラブ」です。その「ロータリークラブ」が増えていく過程で、これらを束ねる組織が必要になり、現在の「RI (ロータリーインターナショナル、国際ロータリー)」が生まれました。全ての「ロータリークラブ」は「RI」に加盟しており、「ロータリークラブ」は「RI」の会員です。時々誤解がありますが、「ロータリアン」個人は「ロータリークラブ」の会員であって「RI」の会員ではありません。

【スライド 23】 では、「ロータリアン」と「ロータリークラブ」はどんな関係にあるのでしょうか。

先ほど申しましたように、「ロータリアン」はロータリー世界において主役です。ロータリーは「ロータリアン」個人個人の自己教育や奉仕の実践が基本になっています。そして、その集合体である「ロータリークラブ」は、会員である「ロータリアン」が成長するために適切な研修を提供し、正確なロータリー情報を提供するなど、「ロータリアン」を育てる脇役です。決議 23-34 以来、ロータリーでは「ロータリークラブ」が進める「団体奉仕」が認められ、さらに現在では RI も「団体奉仕」を主導するようになったので、まるで「ロータリークラブ」が主役であると誤解されている方もいらっしゃいますが、主役は「ロータリアン」、「ロータリークラブ」はそれを支

える脇役であるということを忘れないでください。

【スライド 24】では次に、「ロータリークラブ」と「RI」の関係についてお話しします。

「ロータリークラブ」は「RI」に加盟していて、「RI」の定める定款、すなわち「標準ロータリークラブ定款」を採用する義務がありますが、独自の細則を設けるなど広範囲な自治権を持って運営されています。自治権を持つ「ロータリークラブ」は「RI」の方針に従い協力をしながらも、独自の運営を許されており、「RI」は「ロータリークラブ」に対して命令や強制をすることはできません。すなわち、「ロータリークラブ」は「RI」と対等な関係であり、「RI」の下部組織ではありません。このことを理解していないと、たとえばガバナーが自分たちの頂点に立つ人だという誤解をすることになります。ガバナーは「RI」の地区組織のトップですから「RI」に属します。ですから、ガバナーと「ロータリークラブ」は同等で、主役である「ロータリアン」は、ガバナーと同等、もしかするとそれ以上の存在であって、決してガバナーの下に位置する存在ではありません。ガバナー公式訪問の時は、礼を尽くす必要はありますが、こびへつらう必要は全くないのです。

【スライド 25】次に、「RI」についてお話ししておきます。

「RI」は国際的な組織で、全世界に存在する全ての「ロータリークラブ」が加盟しています。「ロータリークラブ」は 1905 年にシカゴで始まり、その後、サンフランシスコ、オークランド、シアトル、ロサンゼルス、ニューヨークとアメリカ各地に創設され、これらを束ねるために 1910 年に「全米ロータリー・クラブ連合会」が設立されました。さらに「ロータリークラブ」はアメリカ以外の国にも創設され、1912 年にはそれらを束ねる「国際ロータリークラブ連合会」が設立されました。そして 1922 年に現在の「国際ロータリー」に改称されました。

【スライド 26】「RI」は加盟クラブを管理するために、全世界を 537 地区に分けていて、日本には 34 地区が存在します。「RI」の方針を地区に伝える役割を負った「RI」の役員である地区ガバナーが各地区を統括しています。また、ガバナーを補佐する役職としてガバナー補佐を委嘱します。ここまでが RI の公式な役職で、ガバナー補佐幹事は日本で勝手に設置された非公式な役職です。

【スライド 27】広島・山口県は第 2710 地区（だいにせんななひゃくじゅっちく）で、72 クラブが 12 のグループ別に編成されています。広島の 13 クラブと大竹 RC を含めた計 14 クラブは、グループ 6（ろく）とグループ 7（なな）に属しています。当クラブはグループ 7 に属します。この読み方は全国共通ではなく、当地区で過去に取り決めたものですが、地区の決め事ですから正しく読み、伝えていかなければなりません。

【スライド 28】最後に、「ロータリー財団」について説明します。

「ロータリー財団」は、1917 年に「国際ロータリークラブ連合会」会長のアーチ・クラumpf が提唱して始まった「ロータリー基金」が前身です。この年の国際大会でアーチ・クラumpf 会長に贈る記念品代として集めた残金の 26 ドル 50 セントから始まりました。その後、寄付はなかなか集まりませんでした。1947 年のポール・ハリス 逝去の追悼募金をきっかけに膨大な寄付がよせられるようになりました。

ロータリー財団の正式名称は、The Rotary Foundation of Rotary International、通称「TRF」で、日本語に訳すと、「国際ロータリーのロータリー財団」です。これからわかるように、ロータリー財団は「RI」と一体です。実際、2011 年には OneRotary 構想が推進され、それ以降は「RI」と同じ使命を持ち、「RI」と一体になって活動し

ています。

4. 五大奉仕

【スライド 29】次に、現在は「五大奉仕」と呼ばれるロータリーの奉仕部門についてお話しします。

「五大奉仕」の元の英語は、“Five Avenues of Service” すなわち、「奉仕の5つの道」です。「ロータリーの目的」で示されたロータリアン個人による奉仕の実践方法を、具体的に5つ定義したものです。

【スライド 30】1908年にシカゴロータリークラブに入会した経営学の大家アーサー・フレデリック・シェルドンは「職業奉仕の父」と呼ばれ、利己と利他の調和を図るという哲学を中心とする、後に「職業奉仕」と呼ばれる奉仕概念をロータリーにもたらしめました。当時のロータリークラブではロータリーの奉仕と言えば「職業奉仕」でした。

その一方で、最初はアメリカにおける身体障害者救済運動の盛り上がりから、ロータリーでは対外的な奉仕活動が盛んになり、ロータリーは「職業奉仕」だけでなく様々な奉仕の集合体へと変質していきました。この過程で、決議 23-34 がロータリーの奉仕を明確に定義し、ロータリーを分裂の危機から救ったことはご存じの通りです。

そのような奉仕の集合体になったロータリーで初めて公式に奉仕部門が定義されたのは、1927年のオステンド大会で、「クラブ奉仕」、「職業奉仕」、「社会奉仕」の3つが「三大奉仕」と定義され、翌1928年にはこれに「社会奉仕」から分離した「国際奉仕」が加わって「四大奉仕」となりました。「国際奉仕」は第1次大戦をきっかけに始まったロータリーの国際的な社会奉仕活動が起源です。

2010年には、「社会奉仕」から「新世代奉仕」が分離して「五大奉仕」となり、その後、2013年に「新世代奉仕」は「青少年奉仕」と改名されて現在に至ります。このように、「社会奉仕」は時代の要請で変化し、新しい奉仕部門がここから派生しています。これからも変化が続き、もしかすると「六大奉仕」になるかもしれません。

【スライド 31】さて、「五大奉仕」には、「クラブ奉仕」、「職業奉仕」、「社会奉仕」、「国際奉仕」、「青少年奉仕」の5つが含まれます。

「クラブ奉仕」は、「ロータリーの目的」の第1項目にあるように、クラブ内で同じ志を持つ「心の友」が互いに切磋琢磨しあおうとすることです。個人が主役であるロータリーにおいては元も基本となる奉仕と言えます。

「職業奉仕」は、「クラブ奉仕」で養った、「奉仕の心」を職場で発揮し、さらに利己と利他の調和を図っていきこうとするもので、「ロータリーの目的」の第2項目に述べられています。

「社会奉仕」は、「クラブ奉仕」で養った、「奉仕の心」をクラブがある地域社会で発揮しようとするものです。

「国際奉仕」は国際的な社会奉仕、「青少年奉仕」は、指導力があり異文化理解ができる青少年を育成して奉仕への参加と世界平和への貢献を図るものです。

5. ロータリーのビジョン声明 行動計画 戦略計画 中核的価値観

【スライド 32】最後に、ロータリーのビジョン声明 行動計画 戦略計画 中核的価値観についてお話しします。今、ロータリー世界は「RI」が策定した「RI 戦略計画」に基づいて動いています。「RI」に加盟する「ロータリークラブ」には、当然ながらこの「RI 戦略計画」に基づいたクラブ運営が要請されていますので、「RI 戦略計画」とその付随事項をしっかりと理解し、それに沿ってクラブを運営することが必要です。

【スライド 33】では、「RI 戦略計画」についてお話しします。

2001-2002 年度、RI は次の 100 年に向けて組織を導くには長期的な計画が必要であると判断し、長期計画の策定を開始しました。これが“RI Strategic Plan”です。

“RI Strategic Plan”はそのまま和訳すると「RI 戦略計画」となるのですが、日本では当時、「戦略」という言葉は暗い過去を思い出させるとして避けられ、「長期計画」と和訳されました。しかし、現在では「RI 戦略計画」と訳されています。最初の戦略計画は 2010 年から 2013 年をカバーするもので、全世界のロータリーの現状を調査して策定されましたが、これからもアンケートやフォーカスグループなどで集めた「ロータリアン」の意見を基に定期的に見直され、「ロータリアン」の願いを取り入れながら進化していきます。

「RI 戦略計画」は、最終的に達成したい「ビジョン」と、それを実現するための具体的な「行動計画」を含みます。

【スライド 34】まず、ロータリーが最終的に実現しようとする「ビジョン」は、2017 年に採択された「ロータリーのビジョン声明」で示されました。それは次のようなものです。

「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

キーワードは「持続可能な良い変化」です。一度限りの支援ではなく、それが持続するような形での支援を、ロータリー全体で協力して実現しようということです。

【スライド 35】では、どうやってこれを実現するのか。それは、2019 年に採択された「行動計画」に示されています。それは次の通りです。

優先事項 1：より大きなインパクトをもたらす

優先事項 2：参加者の基盤を広げる

優先事項 3：参加者の積極的なかかわりを促す

優先事項 4：適応力を高める

これを実践するのは「RI」ではなく、それに加盟している「ロータリークラブ」であり、その会員の「ロータリアン」個人です。そのためにも、先ほど申しましたように、「ロータリークラブクラブ」は「RI 戦略計画」と合致するような「クラブ戦略計画」を策定し、それに基づいて継続性のあるクラブ運営を行い、会員を導くことが

必要です。「ロータリークラブ」には自治権がありますが、RI への協力の姿勢に乏しい「RI 戦略計画」を無視したクラブ運営は、あってはなりません。

【スライド 36】さて、「RI」が「RI 戦略計画」を策定するにあたっては、次のような「中核的価値観」が重視されています。My Rotary には次のような記述があります。

今日の世界は、1905 年の世界と同じではありません。人口動態が変わり、変化のスピードが加速し、テクノロジーによってつながりや奉仕の新たな機会が生み出されています。不変なのは、ロータリーを定義づける下記の価値観に対するニーズです。

親睦
高潔性
多様性
奉仕
リーダーシップ

では、5 つのロータリーの「中核的価値観」を簡単に説明します。

まず、「親睦」とは、親睦によって国や民族を超えたネットワークを広げ、それを基本とした共同活動が重要だと訴えるものです。

「高潔性」は、職業や社会生活で常に高い倫理水準を維持し、公平さと尊敬の念を持って人々と付き合うことを訴えています。

「多様性」は、クラブや奉仕活動において多様性を大事にすることを訴えています。

「奉仕」は、ロータリーにおいて最も重要であることを訴えています。

最後に「リーダーシップ」は、様々な分野でリーダーシップを発揮できるリーダーを育成することの大切さを訴えています。

「RI」は、「中核的価値観」を重視して「RI 戦略計画」を策定し、現在ロータリー世界はこれに従って動いています。「RI 戦略計画」は、最終的に実現したいことを示した「ビジョン」と、それを実現するための具体的な「行動計画」を含みます。「ロータリークラブ」は「RI 戦略計画」に沿う「クラブ戦略計画」を策定し、クラブの活動が「RI 戦略計画」の実現に資するようなクラブ運営を行う必要があります。

以上、最低限押さえておきたいロータリーに関する基礎知識をお伝えしましたが、冒頭で申し上げた通り全てを網羅してはいません。是非、「ロータリー入門」や「これだけは知っておきたい『ロータリーの基礎』」などの参考書でさらに知識を広めていただければと思います。

これからのロータリアンとしての皆様の成長を祈って本日の研修を終わります。ご清聴ありがとうございました。